

裁判員等経験者との意見交換会を行いました。

東京地方裁判所

令和5年9月28日、裁判員等経験者3名と法曹三者（裁判官、検察官、弁護士）との意見交換会を行いました。

今回のテーマは、「評議の在るべき姿とそのために必要な審理」をテーマに、ご意見やご感想を伺いました。



● 裁判員等を務めた全般的な感想

良い経験をさせてもらった。自分としては制度は十分機能していると思ったので改善すべき点は特に思いつかない。

裁判員制度の存在は知っていたが、自分には関係ないと思っていた。実際に参加してみて、裁判官と同じ一票で、責任の重さを感じるとともに判断を丁寧にしなければと思った。

周囲に選ばれた人もおらず、なぜ自分かと思ったが、選ばれたことを話したら、周囲は皆非常にポジティブに受け止めてくれた。



● 評議の在り方について

裁判官からルールや判断方法などを一つずつ説明いただき、また、評議以外のところでも発言しやすい雰囲気を作っていた。他の人と異なる意見や少数意見も述べることでできていたと思う。

裁判官から議論を誘導されるようなことはなく、むしろバイアスがかからないようにしていると感じた。

論告メモや弁論メモは、時系列や人物関係等が太字等で強調されていて、それを元に争点を追って行けたので、評議でも役立った。



最後の議論がやや駆け足になった印象があったので、もう少し時間があればより充実した評議ができたと思う。

● 審理の在り方について

メールのやりとりなど、証拠の分量は多かったが、事件を深く知ることができてよかった。

供述調書の取調べに関して、モニターに映しながら朗読する方法は、目でも内容を確認できるので分かりやすかった。

証拠の動画も見やすかったが、外国語の翻訳付きのメールはモニターでは字が小さくて見づらいものもあった。

弁護人の活動について、熱心な弁護人がいた一方で、熱心さに疑問を感じる弁護人もいた。

● その他



裁判官の感覚だけでなく一般の国民の意見を反映して刑を決めることは意義があるので、今後も幅広い方々に参加してもらえるように制度を続けてほしい。

若年層の参加について、自分のときは年代の若い裁判員がいなかったので、若い人の意見が欲しいと思っていた。幅広い年代の人から意見が出ることは良いことだと思う。

量刑検索システムは、検索要素が限定されていて知りたい情報がわからないということがあり、使い勝手が悪いように感じた。

休憩時間を減らしたり、審理の時間を延ばす等して全体の日数を減らした方が、仕事の調整がしやすいのではないかと思った。



司会：野村裁判官

みなさま、貴重な御意見をありがとうございました。
みなさまの御意見をもとに、より良い裁判を実施したいと思います。